

## 【取扱い厳重注意】

平成24年1月30日

## 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 三田 浩平

平成24年1月26日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

## 記

## 第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

## 1 被聴取者

駐日英国大使館

## 2 聴取日時

平成24年1月26日午後3時00分から同日午後4時00分まで

## 3 聴取場所

東京都千代田区一番町1 駐日英国大使館

## 4 聴取者

三田主査、仁保主査

## 5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし（理由：（「対象者の希望による。」など簡潔に記載））

## 第2 聴取内容

在日英国市民の避難状況、日本の情報提供等について  
別紙のとおり

## 第3 特記事項

特になし

【取扱い厳重注意】

別紙

1 在日英国市民の避難

- 3月12日、英国大使館は、福島県在住の英国市民に対して直接電話連絡をすることにより、日本政府の出した避難指示に従うよう連絡した。

また、同日、1号機建屋水素爆発後、英国大使館は、原発の状況の他、燃料調達、情報通信、インフラの混乱を全て考えて、東京以北にいる英国市民に対して、東京以北から離れることを考えて欲しい（should consider leaving）との勧告を出した。その際、英国大使館とロンドンの英国外務省は、日本の警察や消防が適切に避難指示を出していると認識していたし、日本政府から原発の状況が決定的に危ない旨の情報も来ていなかったため、そのような状況で英国が、別により広範な避難指示を出してしまうことは刺激的で

英国大使館は、避難指示を出さなかった。

- 私 は、避難を希望する英国市民を仙台のホテルに集合させ、そのホテルからバスに乗せて東京へ連れてきた。大使館から避難勧告対象地域在住の英国市民に対して電話連絡をして、避難希望の有無を聞き、仙台から東京へバスによる輸送を行っていることや、東京から英国へのチャーター便を用意している旨を伝えた。3月12日、私は、英国大使館から出発し、仙台でバスを何台か用意して、そのバスで英国市民を東京へ輸送した。3月12日の最初の便では、約70名が東京へ避難し、その次の便では約30人、最終的には150名くらいが東京へ避難したと思う。私は、確か18日頃に最終便で東京に戻ったが、その時は、日本政府が30kmの避難勧告を出しており、英国人の専門家（ベディントン教授、下記4参照。）も30km内には相当量の放射性物質が拡散する可能性を指摘していたため、念のため、福島県を迂回して新潟をとおって東京に戻ったので、14時間かかった。

また、出国希望者のために、英国へのチャーター機を2便用意したが、結局出国したのは合計で120名程しかいなかった。

2 日本への渡航制限

3月12日から4月16日まで、英国外務省は、北海道以外の東京以北の地域について、必要なければ渡航しないことを勧める 渡航情報を出した。

4月16日には、東京などをその対象から外し、東北地方だけがその対象となっている。

3 日本からの情報提供

原発事故に係る情報は、外務省西欧課から英国大使館に毎日の様に連絡されていた。外務省も忙しい中で色々な情報をくれたことに感謝しているし、その情報の内容にも満足している。

その情報をまとめ、福島県、岩手県、宮城県の英国市民に対してはできる限り彼らに必要と思われる情報を電話等により連絡していた。

## 【取扱い厳重注意】

### 4 英国専門家の分析

原発事故後、英国政府の科学担当チーフアドバイザーのジョン・ベディントン教授 (Sir John Beddington) は、ロンドンにおいて、駐日英国大使館の情報及び英国政府が別途保安院や外務省から手に入れた情報を基に、原発事故による放射能汚染状況を分析していた。英国政府は、駐日英国大使館から送っている情報以外にどのように情報収集していたかは分からないが、保安院と別途連絡を取っていたのだと思う。

3月16日、ベディントン教授は、私 [REDACTED] と電話会談を行い、今の原発事故についての分析について話し合った。ベディントン教授は、悪いケースから良いケースの3段階のケースを想定し、それぞれのケースについて、どのような対応が必要であるかの説明をした。ワーストケースは、原子炉がメルトダウンを起こして、再び水素爆発を起こすというものであり、そのケースでは、東京は放射能を含んだブルームが東京に流れた場合に、一時的に屋内退避をして安定ヨウ素剤を服用すれば問題ないという想定であるものの、ワーストケースになる可能性は限りなく低いとベディントン教授は説明した。さらに、ベディントン教授は、チェルノブイリは爆発により放射性物質が30,000 フィート (約 11,500 メートル) 上空に舞い上がったが、それと比べて福島の場合は、ワーストケースでも放射性物質が500～1,000 メートルしか上空に舞い上がらないので、30kmの避難で安全は担保されている旨の説明もしていた。

私は、その会談終了後直ぐに、その会談録を大使館HP、twitter、Face Book に載せたため、その後日本の状況について、英国の他の専門家がベディントン教授と異なる意見が出るのがずいぶん少なくなり、ベディントン教授の考えに意見集約されていったと感じた。私は、他のヨーロッパ諸国の大使館員からも大変参考になった旨の話を受けた。

他にも、確か3月18日くらいに英国本国から3人ほど専門家が来て、実際に大使館の周りでモニタリングしたところ、全く問題のない数値であったため、そのことも英国大使館にとっては安心材料の一つとなった。私は、その旨を、説明会などで、在日英国市民に対して説明した。

それでも、まだ日本に残った英国市民にとっては不安が残っていた状況であり、私 [REDACTED] [REDACTED] たちは何度も説明会を開いたり、電話で在日英国市民からの質問に答えたりした。

私は、ベディントン教授の分析や、英国の専門家のモニタリング結果から、日本政府の避難指示どおりで問題ないと思っていた [REDACTED] [REDACTED]

### 5 他国大使館との情報共有

私 [REDACTED] は、EU諸国の大使館員同士で原発事故に係る情報交換をしたり、米・豪・ニュージーランドなどの大使館員同士で原発事故に係る情報交換をしていた。特に、米国は情報をたくさん持っているのので、米・豪・ニュージーランドとの情報交換は非常に有用であった。

### 6 日本の支援受入について

【取扱い嚴重注意】

- 私 [redacted] は、外務省西欧課の職員と1日に何回も連絡を取っていて、その職員なしでは調整は不可能だったと考える。その意味では、その職員には非常にお世話になったと思っている。

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted] 外務省は、どこの地域にどの物資が不足しているかなど、各地の状況をきちんと把握していたので、支援物資をどこにどれだけ提供するということは直ぐに調整をとっていた部分について、私は、外務省の調整はよかったと思っている。

三つ目は、英国は安定ヨウ素剤を大量に保有しており、TEPCOにも Fukushima fifty などがあり、安定ヨウ素剤の需要があると思っていたので、確か、3月の中旬から後半くらいに、安定ヨウ素剤の提供を TEPCO に申し入れた [redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

- 日本にいる英国市民に対して、合計安定ヨウ素剤を何人に対して配付したかは分からないが、子供1人当たり2錠、大人1人当たり4錠配付しており、合計では 11,459 錠配付している。

また、他国の大使館員にも要望があれば配付していた。

私 [redacted] は、配付するときには、「今飲む必要はなく、今後おそらく飲む必要はないと思う。仮に、飲む必要が出た時には、直ぐに英国大使館HPにそ

【取扱い厳重注意】

の旨アップする。」旨を説明しながら配付した。

7 日本政府の情報提供状況

○ 私 [ ] は、日本の記者会見の中で、他の国とは尺度が違うことに困惑することがあった。100 Bqと言われても、どのくらいの程度のものであるかが分からなかった。また、通常の何万倍の放射エネルギーが出ていると言われても、それが安全であるかどうか分からなかった。日本は、一般の人々が分かりやすいプレスの仕方を考えた方がよいと思う。

○ 私 [ ] は、日本政府は非常に厳しい状況において奮闘はしていたと思うが、だめだったとも良くやったとも言えない。ただ、我々が同じ立場だったら、同じようになっていたと思う。

また、日本の記者会見は最初官房長官、保安院、TEPCO と別れて実施されており、若干ニュアンスが違う場合もあったので、私たちにとっても分かりづらかったし、日本の方々にもわかりづらかったのではないかと私は思う。私は、地震後しばらくしてから記者会見が統合されたことはよかったと思う。

英国でも、緊急時に、危機対応をする機関が総理府にできるのだが、緊急事態の種類によって、特別な機関ができることもある。私は、英国の方も、記者会見を行う際に、統一した体制が取れるよう考えておかなければならないと [ ] 思った。